五年後十年後の未来を見据えて

昨日の校長会で、水野市長のお話を伺いました。市長は旧釜戸中の大先輩ですし、息子の野球を通して親しくさせていただきました。失礼ながら、親しみのある市長でしたが、昨日の話で、そのイメージが変わりました。私の中に、「リーダーと呼ぶにふさわしい偉大な方」というイメージが生まれました。

「瑞浪の将来につながる主要事業」と題して、市長がこの先取り組もうとしている五つの事業について話してくださいました。その一つが、「東濃中部の医療提供体制整備事業」です。簡単に言うと、東濃厚生病院と土岐市立総合病院を一つにして土岐市と瑞浪市の中間辺りに新しい病院を作るということです。

生徒のみなさんはどう思いますか。気もちよく賛成できる人は少ないのではないでしょうか。瑞浪にある唯一の総合病院がなくなることに危機感を感じる人が多いと私は思いますが。

市長も瑞浪市民です。それなのに、どうして病院を今の場所よりも遠くにやってしまおうとしているのでしょうか。そこに「市長ならでは」の細かい情報収集力、将来を見通す力が発揮されているのです。

先の二つの病院は、総合病院として位置付いていますが、実は、「診療科はあっても医師がいない」という深刻な現状があります。したがって、病気やけがによっては、結局、多治見市や愛知県に足を運ばなければならなくなるのです。

更に深刻なことは、大学が医師を派遣できないということです。若い医師はやはり実績が積める大都市の大きな病院勤務を希望するとのこと。「診療科はあっても医師がいない」という理由はそういうところにあるようです。

したがって、二市で力を合わせて、常勤医師のいる診療科があるより充実した病院を建てることで、この先の医療提供体制を充実させようと市長は考えています。これが実現すれば、病院が遠くなるのではなく、より近くになると言えるでしょう。

このように、市長は現状を正確にとらえ、何が問題かをはっきりさせた上で、その解決策を深く考えてみえます。つまり、彼は目先の今ではなく、五年後十年後の未来を見据（す）えているのです。まさしくこれがリーダーとしての見方であり判断であると私は感じました。

市長は若者たちを集めて、「私たちは準備をして作るだけ。できたものを使うのは君たち若者だよ。だから今から（新しい瑞浪づくりに）参加してほしい」と話してみえます。なかなか納得してもらえなくても、また、反対されても、市長は未来に向けて今がんばっているのです。

生徒のみなさん、どう思いますか。君たちもやがては瑞浪市を動かす一人になるでしょう。そういう意識をそろそろ持ち始めてもよい頃だと思いますよ。

（一月十三日　記）